

令和6年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	岩手県の雨よけ夏秋栽培におけるピーマン台木品種の病害抵抗性及び生育特性
<p>【要約】 ピーマン台木品種「グランバギー」、「みやざき台木5号」、「台ひなた」は、いずれも慣行品種「台助」と同等の青枯病抵抗性を有する。穂木に「京鈴」を用いた場合、栽培初期の草勢は強い傾向があり、いずれの品種も総収量及び可販果収量は、「台助」と概ね同等である。</p>	

1 背景とねらい

県内の夏秋ピーマン産地では、青枯病が安定生産を阻害する要因の1つとなっている。本病に対する耕種的防除対策として、抵抗性台木品種を用いた接木苗の利用が挙げられる。しかし、慣行の台木品種は、自根苗と比較して初期の草勢が弱い傾向がある。そこで、近年育成され草勢が比較的強いとされる有望な L^3 台木品種について、本県の慣行品種「京鈴」を穂木としたときの生育特性を明らかにする。

2 内容

- (1) ピーマン台木品種「グランバギー」、「みやざき台木5号」、「台ひなた」は、青枯病に対して慣行の台木品種「台助」と同等の抵抗性を有する（図1）。
- (2) 穂木に「京鈴」を用いた場合、慣行の台木品種「台助」と比較して上記台木3品種は、定植から6月中旬頃までの初期の草勢は強い傾向がある（図2）。
- (3) 穂木を「京鈴」とし、上記3品種を台木とした接ぎ木栽培では、慣行の台木品種「台助」とほぼ同等の総収量及び可販果率となる（表1、2）。

3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 青枯病発生地域の農業普及員、JA営農指導員
- (2) 期待する活用効果 雨よけ夏秋栽培ピーマンにおける台木選定の参考となる

4 留意事項

- (1) 本試験で供試したそれぞれの台木が有する各種病害に対する抵抗性の有無は以下のとおりである。このうち、青枯病以外の病害に対する抵抗性については、メーカー公表資料等を基に一部改変して取りまとめた。

台木品種名	青枯病	疫病	ネコブ センチュウ	PMMoV抵抗性 遺伝子	育成機関
グランバギー	○	○	○	L^3	タキイ種苗株式会社
みやざき台木5号	○	○	○	L^3	宮崎県
台ひなた	○	×	○	L^3	宮崎県ほか
台助	○	×	○	L^3	園芸植物育種研究所

○：抵抗性あり、×：抵抗性弱（または抵抗性なし）

- (2) PMMoV 遺伝子型は、穂木と台木が同じものとなるよう留意する。

5 その他

- (1) 関連する試験研究課題
(R3-09) 夏秋ピーマン安定生産技術の確立 [R3~R8/県単独, 令達]
- (2) 参考資料及び文献等
 - ア 松永 啓 (2015) 果菜類における病害虫抵抗性育種の現状と展望. 植物防疫 69:339-340.
 - イ 宮崎県 (2018) ピーマン複合病害抵抗性台木品種「みやざき台木5号」の育成
 - ウ 宮崎県 (2020) 接ぎ木栽培における多収性ピーマン台木「試交31号」の育成

6 試験成績の概要（具体的なデータ）

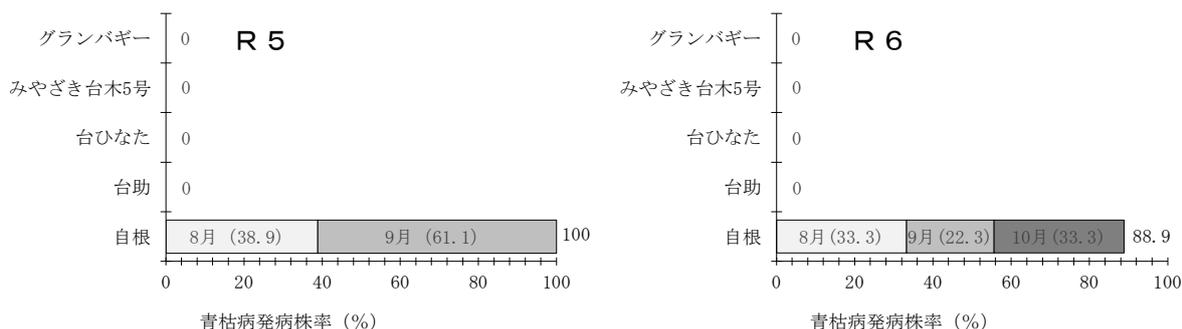
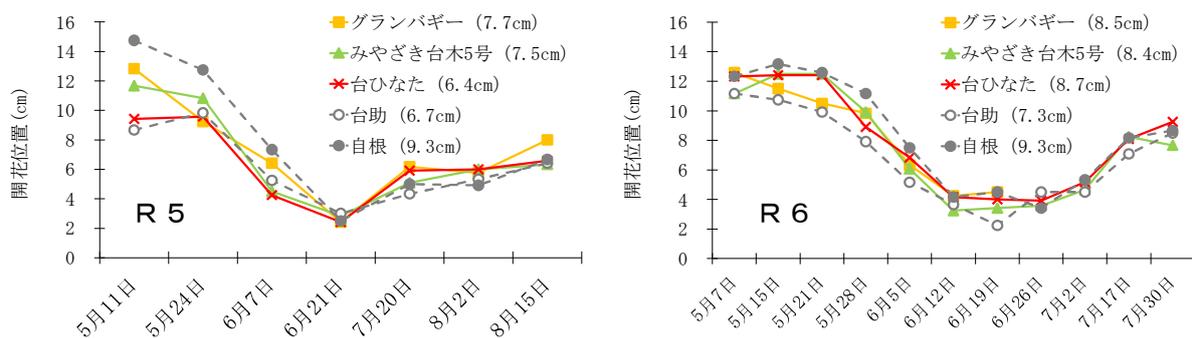


図1 青枯病の月別発病株率（場所：場内の青枯病汚染ほ場）



※（）内は6月中旬までの平均値を示す

図2 草勢の推移（生長点から開花位置までの長さ）

表1 ピーマン収量調査結果（令和5年）

収穫月	グランバギー		みやざき台木5号		台ひなた		台助		自根	
	総収量 (t/10a)	可販果率 (%)								
5～6月	2.8	95.9	2.5	95.7	2.4	92.5	2.5	95.7	2.9	94.6
7～8月	6.1	94.0	5.5	93.7	5.5	90.6	6.1	86.0	5.9	85.0
9～10月	2.8	94.9	2.9	94.2	3.4	93.0	4.0	91.8	—	—
合計	11.7	94.7	10.8	94.3	11.2	91.7	12.7	89.8	8.8	88.2

表2 ピーマン収量調査結果（令和6年）

収穫月	グランバギー		みやざき台木5号		台ひなた		台助		自根	
	総収量 (t/10a)	可販果率 (%)								
5～6月	2.9	95.7	2.8	95.2	3.0	92.9	3.1	93.0	3.0	86.8
7～8月	4.8	95.7	4.5	96.5	4.5	97.1	4.6	95.8	4.5	90.7
9～10月	5.3	97.8	5.1	96.8	4.2	95.6	4.9	96.6	—	—
合計	13.0	96.5	12.4	96.4	11.7	95.5	12.5	95.4	7.5	89.1

【試験概要】（試験実施場所）岩手農研場内ほ場B2ハウス（穂木、自根品種）すべて「京鈴」（播種）令和5年：台木は2月20日、穂木及び自根は2月24日、令和6年：台木及び穂木は2月22日、自根は3月7日（接ぎ木）令和5年：3月17日、令和6年：3月14日いずれも台木は胚軸、穂木は子葉の上で切断し幼苗斜め合わせ接ぎとした。（鉢上げ）令和5年：自根は3月9日、接木は3月24日、令和6年：自根及び接木ともに3月25日（定植）令和5年：4月17日、令和6年4月16日（栽植密度）1,667株/10a（株間40cm×畝間150cm）（整枝管理）主枝4本仕立てとし、側枝は2節摘心した後、収穫後に1節残して切り戻した。（肥培管理）元肥は施用せず、タンクミックスA&BをEC1.0ds/mで点滴かん水施肥した。（調査内容）収穫調査：果実は30g/個を目安として週2回収穫した、生育調査：成長点から一番近い位置に開花した花までの長さを開花位置として定期的に測定した。

【担当】園芸技術研究部 野菜研究室